

令和6年度 小平市立小平第十三小学校 学校評価報告書

学校教育目標	21世紀をたくましく生きる子どもたちを育てることを目指し、以下の教育目標を設定する。 ◎自ら考え行動する子ども(重点目標)・仲良く助け合う子ども・明るく元気な子ども							
目指す学校像(ビジョン)								
【目指す学校像】	子どもたちのみならず、教職員・保護者・地域が、「自ら学び、かかわり、他と共に」を共有しながら、自己の向上を図り、共に育てる拠点としての学校。							
【目指す児童・生徒像】	自ら学び、かかわり、他と共に生きる子ども							
【目指す教員像】	自ら考え行動し、常に研鑽を積み、自己の向上を求め続ける教職員							
前年度までの学校経営上の成果と課題								
【成果】学習ボランティアの増員、習熟度別算数の授業の再開、学習者用端末の効果的な活用により、基礎学力の向上につながった。								
【課題】生活のきまり「スマイル13」を児童だけでなく、保護者会や学級のクラスルーム等、様々な方法で家庭へも周知を図っているが、あいさつや廊下歩行等で改善が必要である。								
	具体的方策	第1回評価		成果・課題・対策	第2回評価		学校関係者評価	成果・課題・次年度以降の対策
		取組指標	成果指標		取組指標	成果指標		
学力向上	①授業規律の確立 ②児童が相互に学び合い高め合う授業の日常的な実践 ③学習者用端末を中心としたICT教育機器の活用と研修の充実 ④授業アンケートの実施 ①学習補助員や地域人材の活用と個別指導 ②東京ベーシック・ドリルや学習アプリの活用 ③習熟度別によるきめ細かい算数科の指導 ④家庭学習の実施と充実(低学年30分 上学年10分×学年)	3	3	年度当初に、授業規律やホワイトボードの活用について周知したことで、浸透している。ペアやグループでの話し合い活動を授業の中で取り入れることで、児童同士の意見の交流が活発に行われた。資料の提示、児童の考えの共有など、様々な場面で学年の実態に応じて学習者用端末を活用できている。授業や朝学習の時間、学年によっては家庭学習で東京ベーシックドリルや学習アプリ活用し、計算問題に取り組んでいる。診断シートを2年生以上の学年で学期ごとに実施し、学力の定着度を把握し、算数の授業改善に生かしている。				
健全育成(いじめ防止)	①ふれあいアンケートの実施と分析 ②いじめ防止にかかわる道徳授業の実施(年3回以上) ③特別活動を中心としたよりよい人間関係形成を重視した活動の充実 ④いじめ防止校内委員会の充実 ⑤生活のきまりの活用 ⑥あいさつ運動の実施 ⑦サポート会議の活用 ⑧委員会・クラブ・たてわり班活動の充実 ⑨全教員が週1回以上の学校ホームページ更新	3	4	ふれあい月間のアンケートの結果から課題を把握し、学校全体でいじめ防止に取り組んできた。細かい事案にも早期対応、解決が図られている。学期始めや保護者会の際に「生活のきまり」を児童・保護者と確認し、校内での過ごし方や持ち物の共通認識を図ってきたことで、児童は落ち着いて生活できている。遠足やクラブ活動、たてわり班活動では、様々なパターンで異学年での交流を行い、他者意識や高学年としての意識の向上につながっている。週に1～2回以上学年のホームページを更新し、学校の様子を発信している。				
特別支援教育	①特別支援教室の効果的運営□ ②特別支援巡回指導の活用□ ③個別指導計画の作成と活用□ ④特別支援校内委員会の効率的な運営□ ⑤こげら支援シートの活用□ ⑥児童一人一人の正確な見取り□ ⑦「こだいこれだけは」に基づく環境の整備(ホワイトボードの活用、教室前面の掲示板等)□	3	4	巡回指導教員の授業観察の際に、通級児童のみだけでなく、気になる児童も多く見てもらい、必要に応じて個別指導計画を作成し、学校全体で情報を共有できるようにした。一人一人への組織的な対応を今後も継続する。特別支援校内委員会を実施し、話し合いの内容を生活指導連絡会で報告することで、支援が必要な児童の情報の共有を図っている。学期中や夏季休業中に、特別支援教育に関する研修を実施し、教員の理解を深めた。				
体力の向上	①休み時間の校庭での活動計画 ②なわとびやマラソンの実施と取組強化 ③裸足の運動会の実施に向けた取組の充実 ④体力テストの結果を基にした体育の指導の工夫 ①様々な感染症への理解と予防の徹底 ②「早起き、早寝、朝ご飯」の啓発活動 ③基本的な生活習慣の確立 ④栄養士と学級担任による食育の授業	3	3	休み時間に校庭に出ることを呼びかけるだけでなく、教員も積極的に児童と遊んだり、計画的に学級レクを実施したりした。2学期以降、なわとび月間やマラソン月間を実施し、児童の体力向上を図っていく。全校共通の給食指導や、栄養士との食育授業、出前授業などを通して、食の大切さを指導し、児童の食に対する意識が上がっている。				
ライ・バ・ラン・ワーク	①C4thの積極的な活用 ②月2回の定時退勤日の設定 ③教員の年次有給休暇の15日取得 ④教員の残業時間月平均55時間以内 ⑤管理職の積極的な休暇取得 ⑥副校長補佐の計画的・積極的な活用 ⑦スクール・サポート・スタッフの計画的・積極的な活用 ⑧働き方改革に向けた、教員自らの目標設定と実践。	3	3	C4thやクラスルームを積極的に活用したことで、印刷時間の減少や情報の共有化、連絡会の時間の短縮につながった。学期内の会議の内容の精選・削減により、教職員が積極的に年次有給休暇を取ることができた。今後はできるかぎり定時退勤日を増やしていきたい。スクール・サポート・スタッフやエデュケーションアシスタントを計画的に活用することで、ゆとりをもって教材研究や校務分掌に取り組むことができている。				